



燃えよ！横須賀



(横須賀の現在・過去・未来を考える会「GKM」)

通巻:第9号 発行2026-09-30日

毛利塾特別講座 スペイン語と中南米カラオケ

いつも毛利塾は「横須賀も誇り」をいろいろな視点で、解説してきた。講座は固い話が多いが、参加者との情報交換を交えながら、横須賀を語ってきた。話が固いところがあり、たまには柔らかい話を講座に取り入れて見た。

高校時代の友人にビジネスで多彩な遍歴を持ち、中南米にレーザーカラオケを浸透させた人物がいる……。

名前は高橋佑輔氏で、学習院大学を卒業した柔道の猛者である。卒業後、商社の西華産業、北海道クマ牧場を経てパイオニアへ入社、配属は中南米向けの販売業務に。後にパナマの現法パイオニア・ラテンアメリカの社長として大活躍。彼が社長として、赴任後売り上げが10倍以上となったが、その苦労話が面白い。①コロンビアではパイオニアが弱小プロ サッカーチームを20万ドルを投資しスポンサーとなり一年後このチームがなんとコロンビアで優勝した。優勝の決まる最終日にサッカー場で彼のアイデアで行ったのが3万人の観客を巻き込んでの「大抽選会」だった。当たりの300人にはパイオニアカーステレイとカースピーカーのセットを進呈した。この時のスラジামの熱狂たるや凄くTV放映効果もありこのサッカー投資PR効果は100万ドルに達した。②.パイオニア主催による中南米カラオケ大会では各国で予選を勝ち抜いた15カ国の歌い手による決勝大会をパナマで開催した。優勝者は欧州旅行とパイオニアカラオケセット。他の上位5名にも豪華パイオニア製品を与えた。

③ペルーでの日本大使館人質事件(1983年)にはチリから出張でリマに来ていた高橋氏にも招待あったが、この日は たまたまチリから麻雀の誘いあったため辞退させてもらった。ペルーでの日本企業代表者はほぼ全員出席していた為、ゲリラによる人質となってしまった。この人質事件での面白いはなしとして、期間中はご将棋 囲碁 麻雀は許され日々に結果がチリの彼の会社へファックス報告された。当時の大統領は日系のフジモリ氏で、この事件は解放成功まで連日大きく取り上げられた。④ラテンアメリカ(中南米。カリブ海諸国)は日本にはなじみがない。鉱物資源、農水関係では多くの交易をおこなっている。⑤スペイン語はブラジルを除いてほとんどのラテンアメリカは公用語として用いられている。⑥最後にスペインの闘牛士を悼みガルシア ロルカカが書いたし「詩」をプロの声楽で読み上げた。朗読はプロ並みであった。時間は少しオーバーしたが、参加者は満足して、終了後近くのペルー料理店で懇親会を急遽行った。講師のスペイン語を通した人生を伝えたかった「重い・思い、想い」を感じた。下にその時の資料と様子の写真掲載した。



講座の様子と
LAUDAの取り
扱い品目エス
トニアのハチ
ミツ。ハチミ
ツ大使元大関
バルトとのツ
ショット

「横須賀製鉄所建設現場からリポート」⑨

予備(第21回) 神社と製鉄所

西洋的システムを持った横須賀製鉄所でも、神社と関係があったのです。慶応2年7月26日(1866年9月4日)は、諏訪神社祭礼のため休みでした。この日は明治2年(1869年)7月まで同様です。諏訪神社は横須賀村の鎮守ですから、同村内に所在した製鉄所でも祭礼日だったのです。また、横須賀村にはない山王神社・日吉神社の祭礼日も休みでした。これは、製鉄所で働く職人に江戸出身者も多かったため、特例で祭礼日になったようです。

ところが、明治2年前半には製鉄所構内鎮守として新たに八幡宮が勧請されました。同年2月21日、八幡宮の鳥居を職人方で奉納し、5月4・5日に製鉄所鎮守八幡宮の正遷宮が執行されたのです。同年8月15日(西暦9月20日)には八幡宮祭礼を行い、幟も新調しました。これらの経費は全て製鉄所土木元請人が出しました。新規に構内へ八幡様を勧請したのは、維新政府の意向もあったのでは？。なお、逸見村の鹿島神社旧地は現海上自衛隊総監部の敷地内でした。慶応4年3～4月に灯籠と祠の修繕が行われ、製鉄所から支払いがありました。しかも、祠の略図はメートル法で示されていました。(安池尋幸)

「ヴェルニー公園」が「ヴェルニー・小栗公園に変更
ベリニー・小栗祭りが毎年11月14日にベルニー公園の銅像前で開催されます。海上自衛隊の軍楽隊の演奏や、各国の大使館の人々が招待されて、ヴェルニー、小栗の功績を称える祭典です。来年1月NHK大河ドラマ「逆族の幕臣」で小栗上野介が取り上げられます。この期に公園の名称を「ベルニー・小栗公園」に改称されます。

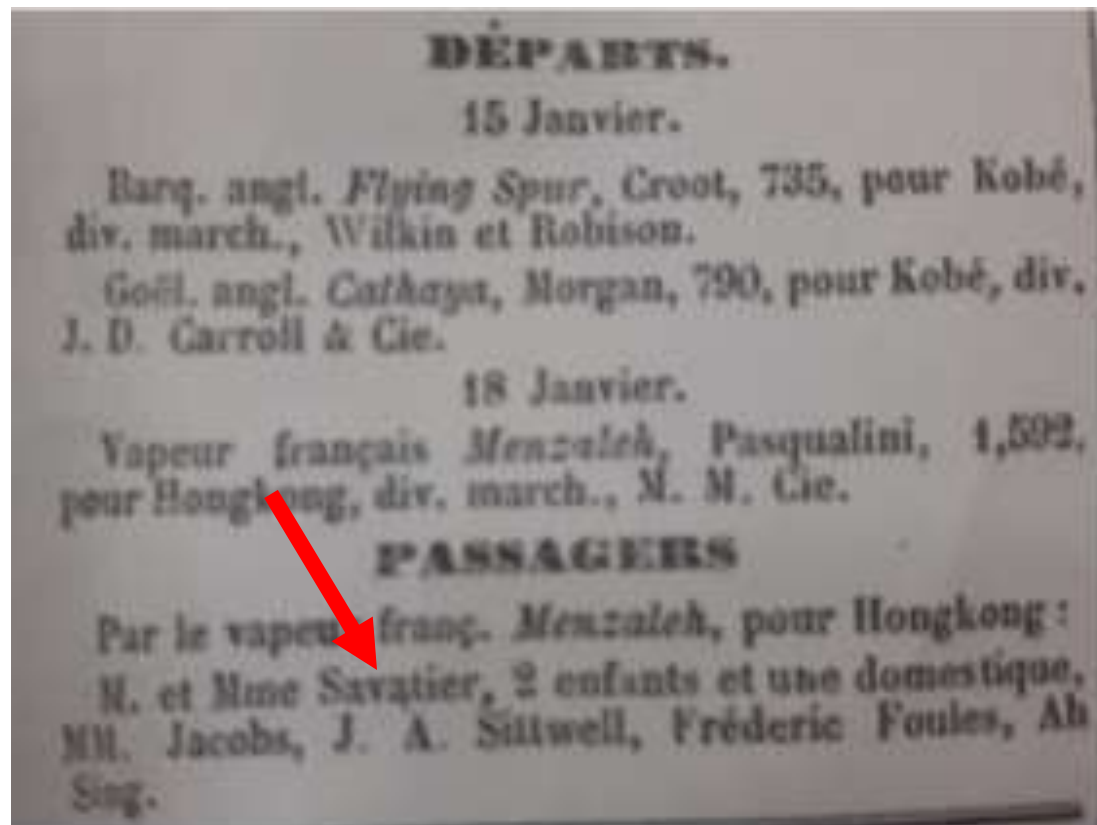
風洞おじさんの独り言⑨

夏島の風洞はSNSの中で無許可で流布されている。総務省「昭和館」で米国公文書館からの日本上陸1945年9月のはじめの公式記録に収録されていた、これを見つけたのは神奈川新聞山元記者であり毛利と永久と一緒に、この映像を3人で視聴した。何だろうと首を傾げたが、飛行機開発の実験装置まではわかるが、専門家でもないのだから。全国に情報提供を求めることに本会が決めた、山元氏がそれを報道すると、栃木の杉山氏から「内部写真」の提供があった。また東大の橋本教授からは撤収時の風洞のリストの提供があった。文字の判読が出来ずに、その出展先の調査を行ったが、原著を入手することが出来なかった。文献の調査では、Wind Tunnel Testing 1945 A.POPE氏の著書が参照されているので、アメリカの古書販売所から購入した。図書代金は10ドル、輸送費約100ドル(航空便)届いた書籍は改訂版だった。必要な情報が削除されていたので再度購入をした。図書大30ドル、郵送費60ドル(船便)。この本には日本の風洞の情報が書かれていた。しかし夏島の風洞の記述がない。あるのは空技廠科学部関係の風洞と陸軍、逓信省、東大、航空中央研究所が主で、中島飛行機、三菱の風洞は小型のものが1件掲載されていた。(毛利、永久)続く



フランス人医師サヴァチエの生涯⑨（江沢暁彦）

サヴァチエはいつ日本を立ったか。当時の外国航路を知っておく必要がある。主に横浜上海航路が有名で、多くの著名人がこの航路から渡欧している。この航路の情報の一つで、当時短期間であるが、横浜居留地で発行された語の新聞「L'echo du Japon」は出入国の様子がわかる。横浜の開港資料館で、何気なくサヴァチエが帰国した時期の新聞を眺めていた。Savachitier の名前が何気なく目に留まった。新聞コラム「MOUVEMENT DE LA RADE」1876年1月18日に出国の記録がある。奥さん、子供二人、従者。この記録は偶然に見つけた。何気なくページを調べているのでなく、ページを捲っているときに「savatier」の字が浮き上がってきた。発見というのはこのようなものかと思った。当日小物入れを喫茶店に忘れて、誰かが盗んだようだ。発見の嬉しさに我を忘れたようだ。



GKMの活動報告

○動向

▲8月22日から30日までに三笠保存100年とふね遺産の認定の記念展示会を横須賀市民活動サポートセンターにて開催。記帳者は132名。見学者は3倍と見積もり、300名以上が見学した。

▲三月に「三浦半島委の文化を考える会」主催の講演会にGKMが意表幹事 毛利邦彦が行った講演の取りまとめが10月に発刊される。「横須賀夏島にあった謎の巨大風洞の謎に迫る」と題して本会幹事永久淳雄との共著。文教堂書店では1000円 GKM会員は500円となりますので事務局まで申し込みください。

重要なお知らせ

GKM月報に会員と賛助会員の呼びかけを行っていましたが次の賛助会員の申し出がありました。

- 株式会社 グリーンユーティティ 4万円
- 株式会社 東洋テクニカ 3万円
- 一般財団法人 地球温暖化防止LSE技術アカデミー 3万円
- 岡添 亨氏(東京都) 1万円
- 菅谷哲夫 (調布市) 1万円
- 池杉守(横須賀市) 3万円

賛助会員にはGKM月報に会社概要などのPRを掲載できます。

会員、賛助会員の申し込みは mourijuku@jcom.zaq.ne.jp にお願います。

省エネルギー技術とともに歩んできた、私たちの軌跡

技術を生み出し、 社会へ届け、 未来へつなぐ

地球温暖化やエネルギー問題が社会全体の課題となる中、長年にわたり「技術によって何ができるか」を追究してきたのが、森幸一です。

代表の森は、名古屋大学エコトピア科学研究所研究員を経て、九州大学大学院工学府、三重大学、中部大学などで教育・研究に携わり、現在も大学との共同研究や技術活動を続けています。

研究者としての視点と、ものづくりの現場で培った経験を併せ持ち、単に消費電力を抑えるだけではなく、人にとってより快

適で、環境にも配慮した技術とは何かを考え続けてきました。

その歩みは、株式会社東洋テクニカによる**技術開発**、名古屋大学内の研究会を起点とする株式会社グリーンユーティリティーによる**社会実装**、そして一般財団法人地球温暖化防止LSE技術アカデミアによる**学術支援と人材育成**へと広がっています。

THREE PILLARS

技術開発

株式会社 東洋テクニカ

社会実装

株式会社 グリーンユーティリティー

学術支援と人材育成

一般財団法人 地球温暖化防止LSE技術アカデミア

01 株式会社 東洋テクニカ

— 技術を生み出し、形にする —

その原点にあるのが、株式会社東洋テクニカです。同社では、森幸一が開発した技術を基盤に、省エネルギー機器の研究開発・設計・製造に取り組んできました。その代表的な技術のひとつが、「陽光LED」です。

陽光LEDは、快適性と省エネルギー性能の両立に加え、光が人の心身に及ぼす影響にも着目し、明るさだけではなく「光の質」そのものを追求した照明技術です。明るさ、色、光の波長など、光を構成するさまざまな要素に

陽光LED照明
「明王 Myo-Ou」シーリングライト

太陽の動きを再現し、1日に43回自動で調光/調色を行い、太陽光レベルにブルーライトを抑制することに成功。近年ではタイで開催された、国連に関する展示会にも採用され、世界的に注目を浴びている。

 **株式会社東洋テクニカ**
TOYO TECHNICA CO.,LTD



大阪・関西万博 出展

ヘルスケアパビリオンにて展示

02 株式会社 グリーンユーティリティー

— 大学研究から生まれ、技術を社会へ届ける —

株式会社グリーンユーティリティーという名称は、名古屋大学内で行われていた産学共同の研究会「グリーンユーティリティー」に由来します。その研究成果を社会へ還元することを目的に設立され、現在は、森幸一が開発した「陽光LED」をはじめとする省エネルギー技術を、企業や公共空間、各種施設へ展開しています。

大学・研究者との連携のもと研究・検証を重ねてきたその技術は、大阪・関

西万博でも取り上げられ、さらに国連の場でも発表されています。また、東京メトロ副都心線への導入実績をはじめ、実社会のさまざまな場面で活用されています。

研究によって得られた知見を、実際の社会で使われる技術へ。グリーンユーティリティーは、省エネルギー化だけでなく、人が過ごす空間の快適性にも目を向けながら、技術と社会をつなぐ役割を担っています。

 GREEN UTILITY



東京メトロ様

- ・新副都心線7駅を含む計9駅における全てのサイン看板の導入
- ・及び池袋駅の天井照明を、弊社が1社単独で受注。

03 一般財団法人 地球温暖化防止LSE技術アカデミア

— 学術で支え、次世代へつなぐ —

一般財団法人地球温暖化防止LSE技術アカデミアは、東北大学、東京大学、東京科学大学、静岡大学、名古屋大学、岐阜大学、三重大学の7校の国立大学に関わる工学博士らによって設立された財団です。地球温暖化防止と省エネルギー技術の発展を目的に、それぞれの専門的知見を生かしながら、研究支援、技術普及、人材育成に取り組んでいます。

また、株式会社グリーンユーティリティーの活動をアカデミックな立場から支え、技術に関する研究・検証を行うことで、その価値を社会へ正しく伝える役割も担っています。さらに、技術そのものだけでなく、その背景にある知識や理念を次世代へ継承し、地球温暖化防止に貢献できる人材を育てることも、財団の大切な使命です。

 **LSE** 一般財団法人
地球温暖化防止
LSE技術アカデミア



第100回「ESP推進分科会」定期セミナーにて

2ヶ月に1度、会員限定のセミナーを開催。

未来へ向けて

私たちはこれからも、陽光LEDをはじめとする省エネルギー技術を通じて、環境負荷の低減と、人にとって快適で健やかな社会の両立を目指してまいります。

長年培ってきた技術と、大学・研究者、そして多くの方々とのご縁を大切にしながら、持続可能な未来へ向けて歩みを進めていきます。

代表企業

株式会社 グリーンユーティリティー

代表取締役 森 幸一

所在地 〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田五丁目7-28

TEL 052-746-9139

設立 2003年9月18日

FAX 052-746-9133